

令和4年度第7回矢巾町立学校通学区域審議会報告書

1 開会（午後6時30分）（進行 村松学校教育課長）

2 挨拶（田村会長）

皆さんおぼんでございます。お疲れ様でございます。何かコロナもなかなか収まらないという状況の中で、当審議会も、前回は書面開催ということで実施をさせていただいたところであります。本当にあの、皆さんにはこのような対面での会議も含めて、これまで1年ちょっとにわたってですね、会員の方慎重にご審議していただきまして大変ありがとうございます。なんとか答申をする段階に至っているのかなというふうに思っております。皆様のこれまでの真摯な議論に感謝を申し上げたいというふうに思います。後ほど発言の機会もあるということですので皆様に感謝の一言まずご挨拶でということを考えてまいりました。本日もどうぞよろしくお願いをいたします。

3 議題（進行 田村会長）

- ・矢巾町立小・中学校の適正規模、適正配置について
高橋学校教育課長補佐から、これまでの経緯、答申の骨子について説明。

○田村会長

過去に例を見ないような、こういうコロナ禍での審議会ということで、対面での議論はもちろん、書面によって意見を集約するなど、委員の皆様の議論というのが十分に行われてきたのではないかとこのように思っております。おかげさまで答申書を作成することができました。改めて感謝を申し上げたいというふうに思います。それでは、皆様にお諮りいたしますが、本答申書につきましてこれに異議ございませんでしょうか？

<異議なし>

○田村会長

全会一致ということで確認をさせていただきたいと思っております。大変ありがとうございました。今後、教育委員会におかれましては、本答申の趣旨を十分に踏まえていただいたうえで、矢巾町立小中学校における適正規模適正配置に関する基本方針を策定されることをこの審議会でも期待しております。審議会も本日が最後というふうになりますので、教育行政への皆さんの思い、矢巾町に対してのご意見等について一言ずつお話をいただいてこの審議会のまとめの方に入っていきたいというふうに思いますが、よろしいでしょうか。

○A 委員

教育に求めるところというところと最初にやっぱり出てきてしまうのが、通学路の安全確保である。うちの小学校のところでは完璧ではないなという課題があるところがございますので、そこがちょっと今後開発される地区の二地区については徳田小学校ということになっておるようですので、現状、まだ危ない危険な箇所がある中、来年再来年にかけて、計画的にそちらの方もPTA等、校長先生、先生方と話し合っていないといけないなということを考えておりました。私の方から以上です。

○C 委員

私は令和4年度からPTA会長としてですね、就任いたしまして、この町立学校の通学区域審議会に関しましては、前会長さんが、よく会議に出席していただいたところではございますけれども、私もこのような形ですね、非常に重要なこういった会議に参加できまして、自分の勉強にもなりましたし子供たちの今後のことを考えることができましたことを非常にありがたく思っております。ありがとうございました。

○E 委員

途中の方なかなか不参加になってしまっていて大変申し訳ないと思っておりましたが、事務局さんの方からの情報提供の方を常にいただいております、進捗の方がわかるようになったので、非常に助かりました。改めて、感謝を伝えたいと思います。いただいた資料を拝見させていただいて、やっぱり審議の方は十分に中身は十分協議通りできたと思っておりますので、この内容に関して非常に満足した形で、答申案の方、賛成させていただきました。そして最後に矢巾町らしい、その基準もしっかりと見据えて、矢巾町の子供たちらしさを十分育てていけるような環境をこれから作っていけるように、みんなで協力して作っていければなと思っております。

○F 委員

今回このような貴重な体験といいますか貴重な機会を与えていただいて、非常に教育っていうものに私も非常に関心が向くようになりました。今回の答申を拝見させていただいて非常に安心感といいますか、非常に安心できる内容であり、今回参加してよかったなっていうそういう思いがあります。あと個人的にはやはり、子供が困ったときに親に相談できるような、親でなければならぬ。子供が困っているときに、親も困っていたり仕事であったり様々、困っている親に子供が相談できないだろうなっていうようなことは非常に感じておまして、やはり子供が相談しやすい、そういう雰囲気や家庭で作らなければならないなと思っておりますし、そのまま家庭、家庭の教育力を上げていくっていうことになるだろうなっていうふう気づかされたというところでございます。感謝いたしたいなと思っております。ありがとうございました。

○G 委員

私も皆さんと同じで、たくさんのことを気づかせていただきました。そういう意味で、大変感謝を申し上げます。特に小学校の今現在も含め、先に渡るまでのたくさんのデータを示していただいて、その中から今現在困っていること、将来、もっともっと困ることなど、いろんな気づきをさせていただきました。人・町・仕事たくさんことから、総合的にものを考えていかないと、一つのことだけで物事決められないなど、いい気づきをたくさんいただきました。ありがとうございました。

○H 委員

まずこのような膨大なご意見等々、まとめていただきました事務局の方に感謝申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。私も同じですね皆様と同じでこういう会に参加させていただいて、非常に学ぶこと、知らなかったこともたくさんございましたし、今後にも生きていくんだろうなと思っております。私はもう子供たちもどんどん大きくなって、今度は地域という立場からですね、学校運営協議会も務めておりますので、これから学校地域と先生方と、あと保護者というところで学校経営をしていくっていうところですね、地域の方から子供たちのことをですね、ちょっとバックアップしていけばいいのかなと。あとは最終的にですねこういう話し合いの中で大事なものは

子供たちがですね、矢巾に生まれてよかったと、矢巾の学校を卒業できてよかったと思えるような、形ですね、感じて将来矢巾に住んで矢巾で働いて矢巾を盛り上げてくれればいいのか。それが一番の効果なのかと思って感じておりました。また今後ともよろしく願いいたします。ありがとうございました。

○I 委員

まず皆様の言われる内容が重複しますけれども、7回にわたっての審議会ということで、本当に様々な資料、あるいは観点から、本当に学校の適正規模適正配置ということについて事細かに深く学ぶ機会になったことを本当に感謝申し上げます。私事ですが、現在の地域の公民館長やスクールガードあるいは学校運営協議会、社会教育委員等を務めさせていただいておりますけれども、この答申はやっぱり、最終的には子供たちの確かな学力とか健全育成に繋がるものだと思ってますし、コミュニティスクール等もやり始めて、それがある程度軌道に乗るような形で、地域学校そして子供たち含めて保護者も含めて一体となって、矢巾町の子供たちのために何とか私も微力ではございますけれども何とか力を注げる部分があればやっていきたいなと思っております。本当にありがとうございました。

○J 委員

現在公民館長を仰せつかってますが、こういう機会で私が70なんです、知らなかったことをかなり勉強させていただきました。それでこれを機会に、学校運営がなされてるんだなと気づかせられました。我が不動小学校も来年が150周年になり、そういう人たちにこういう会議があって運営されてるんだなっていうことを学びました。本当にありがとうございました。

○K 委員

私も今年度からの参加で、あまり最初の頃のことをわかってないので、この答申というのは意見いただいた中で決まるのかとか、勉強になりました。ありがとうございます。私は東小学校の近くだったんですけども、あそこは今も病院が来たおかげで非常に増えています。さらに困るのは、ここ何年か経って、多分通勤の方々が裏道をどんどん覚えて、裏道の交通量は非常に増えましてまさに私の前のところは通学路なんですけども、通学の交通量も明らかに増えてます。なので本当にあそこ何も起きなければいいな。いつもスクールガードさんがついて、あのこうやって走るの見てるんですけども私が一番気がかりな点です。

○L 委員

私はPTAの職を退いてから2年、3年目になるのでちょっと現場の方は疎くなってきてるんですけども、求めるのはやっぱり子供たちが安全に学校に通学できること、安心して学校に行って勉強ができること、友達と遊ぶことかと思ってます。それらは最低限必要なことであってさらに求めることは、子供たちが、矢巾町で育って、矢巾町で仕事をして、矢巾町で家を建てて定住するっていうような、魅力的なまち作りっていうところが必要になってくると思うので、そういったところを盛り込んだ教育方針みたいなのを位置づけてもらえると非常にありがたいなと思います。

○M 委員

こういうような会議に参加させていただいてとても学ぶことが多かったなと思います。やっぱり教育現場、いろいろあると思うんですけども、やっぱり安全に登校できることが一番。そして、学校の先生や友人といろんなことを学ぶというのが、第一じゃないかなと思います。地域にも現在は恵まれていますので、スクールガードさんとかにも支えられながら、登校ができていかなと思っております。今後、矢巾町の教育が、もっともっと盛んになって、矢巾でいろんなことを学んで、歩んでいかせたいし私達もそれに応援していく立場として頑張っていきたいなと思っております。ありがとうございました。

〇〇委員

答申がまとまっておめでとうございます。私は不登校、学校渋りとか、あとは登校しづりですね長期の欠席で、おうちに行ったりする生徒さんたちを支援させていただく実践者としてここに参加させていただいたと思っております。地域でいろんな県内の市町村、あと教育委員会の方で、地域課題解決のセミナーとかに呼ばれて、その時話すのは、今お話したような不登校の生徒さんたちとの関わりのことです。ですから、結構矢巾の方、県内でも私はこの不登校のところすごく一生懸命やっている地域だなと思ってはるんですけども、まずその小学校中学校の答申が決まったということで本当に良かったなと思ってます。ただ、器が決まって方針が決まったんだけど、生徒たち自身が求める学習スタイルっていうのは、私達が経験してきた学習スタイル与えられた学習スタイルとは、ちょっと想像以上に求めているものが違ったりしているっていうのが、ちょっと痛感している今状況です。ですから、教育領域での矢巾町のさらなる町おこしというか、特色のある学校作り、教育作り、子供作り、あとは生き方まで何か繋がっていくといいなと思っていました。小学校と中学校がまず形ができて、それで横繋がりができて、小学校のときこうだった、こういうことがあるんだ、そういうことを中学校の方にしっかりリレーで繋がって、そこからまた地域の方に広がるっていうのが、理想だなと。私は勝手にちょっと、対応していて思ってます。そして縦繋がりの統合した教育、それが、矢巾の方で何か広がりそうな気がしますんで、ぜひここに一緒に参加していらっしやっただ方も心を置いていただきながら、元気に通える生徒もいるけどちょっとそうじゃない子どもどうしようかってところで、ちょっと町で考えていただくっていうのも必要かなと思います。このような会に参加させていただきまして本当にありがとうございました。委員の皆さん、大変ありがとうございました。

〇田村会長

一言って言ったので本当に短くお話をさせてしまったなと思っております。まだまだ多分お話したいことおありなんだろうなというふうに思いますが、これからまたそういう思いも、地域活動だとか学校との関わりの中で、ぜひ生かしていただけたらば本当にありがたいなというふうに思います。今日お話を伺って委員の皆さんの主語がやっぱり子供を、子供の何とかで、子供のためとか子供がこうなっていけばいいなと、非常にやっぱり主語に子供を置くっていうのはこれからの教育の中で重要なんだろうというふうにこれまでの審議の中でも考えてきたところでもあります。やっぱりどのような子供を育てていくのかということが、やっぱりコアというか、核になることなんだろうなというふうに思っています。もちろん町全体教育委員会としてどうなのか、それぞれの学校としてどうなのか、家庭はどうなのか、地域もどうなのかということでもあります。地域連携とか共同っていうのが必要だということで、コミュニティスクールの発想なんかも今出てきているわけですが、今こそ矢巾の様々な資源を生かしながら、町全体で

すね総がかりでですね、子供がいようがいまいが地域でやっぱり子供を育てていくということが今問われているんだろうというふうに思います。自分の子供ばかりではない隣の子供だって遠くの違う地域の子供であっても、やっぱり矢巾の子供でありますからこれから皆様にはそういう点も含めていろいろとお願いしたい激動の時代です。このスピードに果たしてどうついていくのか、先ほど柄内さんのお話にもあったようにやっぱ付いていけない子供だってたくさんいるわけですよ、一人一人の子供をよく見ていかなければならない時代っていうのはまさに今なんだろうなというふうに思いますし、やっぱり子供たち自身が、集団というのももちろん大事ですし、個々の目標に向かって努力をしていく子供たち自身が学び続けていくことがやっぱり力をつけていくということにも繋がっていますので、ぜひやっぱりそういう子供を町全体で育てていかなければならないんだろうというふうに今皆さんのお話から考えたところでもあります。改めて委員の皆さんには長期間にわたりまして、委員の任を遂行いただき本当にありがとうございました。また、事務局の皆さんには、本当にあの詳細で適切な資料を提供いただきました。議論ができる好環境を作っていたいただいたということがこの審議会の成功というかですね、成果の一つなんだろうというふうに、思っております。

本当にありがとうございました。終わりにということですね、あの、すみません、答申書の終わりにというところをちょっと読ませていただいて、本審議会の意見のまとめにしたいというふうに思います。国においては、中央教育審議会が令和3年の1月に令和の日本型学校教育の構築を目指して、いうものを答申しています。中身は全ての子供たちの可能性を引き出す、全ての子供に可能性があるんです。引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現を答申しています。答申の中には、Society5.0の到来など、社会のあり方が大きく変化する時代を見据え、これからの初等中等教育のあり方についての目指すべき方向性と具体的な方策が示されております。そういうことを念頭に置きながら本審議会の方は審議を進めてきたというふうに解釈をしております。審議に当たっては、子供たちの教育環境の実現に向け、活発な意見交換が行われるとともに、委員一人一人が子供たち一人一人が幸せで充実した人生を歩んでほしいという思いを、議論の根底として共有していたというふうに私は解釈していましたので、こちらの方に明記をさせていただきました。また、本町の教育を振興するための人的物的資源が身近にあることを改めて気付くことができ、それらの資源を有効に活用するためには、今後、学校と保護者、家庭ですね地域との連携協働というのが、いかに重要になってくるかということが本審議会でもかなりの議論を費やしたところでもあります。これらのことを踏まえた答申の趣旨を十分に鑑みて、矢巾町立小中学校の適正規模適正配置に関する基本方針を策定されることを期待するものであります。町教育委員会におかれましては、子供たちにとってよりよい教育環境について継続的に調査研究を行い、保護者や地域と連携して、学校はもちろんであります、「和といたわりと希望の町やはば」の町作りに貢献する次代の担い手を育成されることを願っているということを本審議会のまとめとしたいと思っております。よろしく願いいたします。以上をもちまして議題の1を終了いたします。ご協力大変ありがとうございました。

4 答申

○田村会長

<答申書>

矢巾町教育委員会教育長、和田修様。矢巾町立小中学校の適正規模適正配置について答申をいたします。令和3年6月29日付け3矢教学第908号で諮問があった今後の学

校教育の充実に資する矢巾町立小中学校の適正規模適正配置について本審議会の意見を別紙のとおり答申します。矢巾町立学校通学区域審議会会長田村忠。

○村松学校教育課長

教育長から委員の皆様には謝辞がございますので、よろしくお願い申し上げます。

○和田教育長

改めましてこんばんは。ただいま田村会長さんの方から答申書を受け取りました。昨年の6月29日から7回その間、コロナとの戦いでですね、なかなか皆さんに集まっていたく機会というのを作れなくて、書面開催ということもありました。今学校現場でも子供たちはコロナと戦っています、様々な会議もこうやってコロナと戦っています。そういう中で、本当に皆さんに様々なご意見をそれぞれの立場で、考えられたことをご意見として賜りました。それをもとに事務局としてまとめさせていただきました。本当にありがとうございます。そこで、私なりですね、考えを改めてここで話をさせていただきたいと思います。先ほど、一言ずつ委員の皆さんからお話いただきました。その中に、学校運営協議会、コミュニティスクールのことがありました。私は自分の中で、矢巾が一つになって子供たちを支える、そういうコミュニティスクールができないかというのが願いでした。そしてそれを、形を作ることができました。各学校に部会があり、そしてそれをもとに、代表の方々が集まって町の学校運営協議会、というふうなことを作ることができました。これは、私達大人が矢巾に住んでいる私達大人が、矢巾の子供たちを支えるためのコミュニティスクールです。その願いは、この今回の審議会に生かされていることだと私は思っています。そういう学校作り、適正な、そして適正規模、そういったものを、私達大人の責任で将来を生きる子供たちのために考えなければいけないと思っています。先ほど田村会長さんがおっしゃいました、主語が子供、私も同感です。主役は子供です。主語も子供です。でも子供たちではないんです。子供なんです。一人一人違う。その一人一人違う子供たちのために、私達大人が頑張らなければいけない、そういう願いで、様々な教育活動に私が携わってきました。この審議会についても皆さんのご協力のおかげで、なんとか答申を受け取りました。この答申を受けて、先ほど事務局の方から説明ありましたけれども、基本方針を作らせていただきます。そして、その後、町民の皆さんへの説明の機会があったりとか、あるいは様々な町の課題がございます。その課題との組み合わせの中で、将来の学校作りどうしたらいいのか、将来の子供にとっての学校はどんな学校がいいのか、それを考えてまいりたい、そう思っております。これまで2年間の間、本当にありがとうございました。

5 その他
〈特になし〉

6 閉会（午後7時13分）（村松学校教育課長）